■ R7年度 萩博物館の目標

基本使命 地域の社会教育施設、萩まちじゅう博物館構想のコア施設、萩の周遊観光の拠点としての役割を念頭に、地域資源の掘り起こしや資料・情報の集積と活用に努め、地域に開かれた博物館として持続的な地域づくりに貢献するとともに、地域資源をいかした新たな萩観光の創出に寄与する。

【優先順位(案)】【A】＝年度内に必ず実施し、本年度内に成果を出す
【B】＝ある程度緊急性が高いので可能な限り実施するが、難しければ 2～3 年で目標達成する計画まで策定
【C】＝問題意識をもって論議や準備を進めて計画を立て、2～5 年内には着手して成果を出す

目標	達成内容・基準
目標1 博物館展示の戦略的な展開	魅力的な展示会を年間通じて戦略的に展開し、萩の地域資源や魅力・課題を多角的に発信する。また、理想的かつ現実的な展示会の運営体制を構築する。 **博物館展示のあり方の検討：** 近年の社会の要請や当館を取り巻く状況の変化を踏まえた展示のあり方を模索する。合わせて、今後に向けて持続可能かつ現実的な年間来館者数を設定し、必要な展示予算の確保を行う。 **特別展・企画展の企画・実施：**萩博物館審議会及び特別展企画展開催実行委員会の意見を踏まえ、中長期的に展示テーマやターゲットを検討したうえで、戦略的に展示企画を行う。展示にあたっては、関連企画や情報発信を一体的に捉えて実施する。実施後は手法と効果を点検・検証し、次年度以降の予算や展示企画・情報発信の手法、現実的な人員・労力の配分などに繋げる。 **常設展の運営・展開：**萩市が今年度から取り組む文化観光地域計画に基づき、令和 11 年の開館 25 周年を目途に展示の改変や運営の改善を図る。今年度は、wifi・ポケット学芸員などの利用拡大、より適切なガイドの手法の検討も行い、観覧環境の向上も図る。多言語解説整備事業に関する役割分担や諸対応も行う。 **付帯事業：**各展示会および館全体の魅力増幅のため、デジタルツールなどの導入、展示映像・関連企画・増強企画などを学校教育や市民連携を意識しながら検討・実施する。 **情報発信：**各公式ホームページ・SNS からの戦略的かつ継続的な情報発信を行い、届けるべきターゲットに情報を届ける。記者発表、その他あらゆる機会を通じて、展示の魅力や話題を提供していく。 **特別展企画展開催実行委員会：**委員会において、訴求力のある情報発信や魅力ある展示・関連イベントを企画するため中長期の展示のテーマ・ターゲットについて意見や、次年度の展示・関連イベントについて方針を示せるよう必要な情報や提案を行う。また、当該年度の展示・広報宣伝等のプロポーザル審査会を開催する。

目標２ 社会に開かれ、地域に繋がる博物館（萩まちじゅう博物館の拠点施設として）	まちじゅう博物館構想に基づき、関係各課や団体との連携を強化しつつ、社会に開かれ地域に繋がる当館の今後のあり方を模索する。また、萩市が今年度から取り組む文化観光地域計画に基づき、それに必要な体制や環境の整備も行う。 **開かれた博物館（内）：** 来館者に開かれたスペースとなるよう「まち歩きステーション」「探Ｑはぎ博」の今後の整備及び運営方針を策定する。 ユニバーサルミュージアム実現に向けての課題の研究・整理を継続する。 NPO 萩まちじゅう博物館と協働し、ミュージアムグッズの企画・制作・販売を進める。 長屋門、隅矢倉、野外展示、前庭など敷地全体について、NPO 萩まちじゅう博物館との協働を前提とした活用及び環境整備の検討を行う。 **開かれた博物館（外）：** 萩博、明倫、周辺のまち等を快適に周遊・観覧できるサイン・表示をプラニングする。文化財施設との共通観覧券の検討、シェアサイクルの活用などを行う。また、周辺で開催される萩観光のイベント（竹灯路、時代祭り、萩城下の古き雛たちなど）との連携を図り、新たな来館者を迎え入れる。 **繋がる博物館：** 当館を拠点に「まち」の資源や魅力を共に発見・普及したり各種行事を運営したりする担い手の確保・養成を目的に NPO 萩まちじゅう博物館が実施する「萩学講座」を支援する。 萩まちじゅう博覧会において実施される市民や事業者のプログラムの企画・運営を支援する。
目標３ 地域の調査研究機関としての博物館	地域総合博物館として、萩の自然・歴史・文化に関わる地域資源の調査研究体制を再整備し、その研究成果を地域社会に還元すると共に、まちじゅう博物館構想や萩観光を通じて地域社会に貢献する。 **地域総合博物館としての研究テーマ：** 中長期的な調査研究の展望と、分野横断により地域社会に有益となる調査研究分野の模索を行う。 **調査研究成果の発信：** 前年度までの教訓を活かし、研究報告書の内容の充実を図る。研究報告書の PDF 化、CiNii Research、J-STAGE など学術データベースへの登録も行う。また、記者発表、ミニ展示など様々な手段を用いて研究成果を市民へ還元する。 **社会総がかりの調査研究体制：** 他館や部課・機関・団体と連携して調査研究を行う。また、NPO 萩まちじゅう博物館学芸サポート班との協働による調査研究テーマの模索・体制も構築。
目標４ 地域の社会教育施設としての博物館	地域の社会教育施設として、当館が果たせる役割や意義、地域に求められていることを整理し、市民や児童・生徒に萩の自然・歴史・文化、まちづくりや博物館学などを教育普及する。 **学校教育：**「教員のための博物館の日」や小中校の校長会議の博物館での開催を継続的に行い、教員らとの意見交換や展示室の見学などを通じて、各展示会や常設展・各種行事を軸とした学校教育利用の推進を行う。 **地域学習：** 各地域の総合事務所などと調整しつつ、須佐歴史民俗資料館、阿武川歴史民俗資料館などと連携した地域学習プログラム・出前授業・館内授業・おたからプロジェクトな

	どのメニューを考案・整理する。 **実習・授業の受入れ：** 博物館実習生、インターン、各種研修生の受け入れを行う。ほかにも提供できる出前授業・館内授業・おたからプロジェクトなどのメニューを考案・整理し、告知して利用を呼びかけ、受け入れる。 **天体観望会：** 今後の活動のビジョンを検討・調整し持続可能な運営体制づくりをする。【〇】 **人文系講座：** 史都萩を愛する会、古文書講座などの今後を見越した持続可能な運営体制づくりを行う。
目標５ 資料の戦略的な収集・管理と市民への還元	改正博物館法に沿って博物館の資料管理の意義を確認し、資料や情報を適切に管理すると共に、積極的に発信・利活用をして市民に還元する。 **収集保管と修復：** 展示会や地域課題に関する調査研究・普及活動での活用を想定した戦略的に収集や、受入・寄贈・寄託・処分の基準の整理、資料の閲覧・貸出の基準や体制を再整備。資料の意義を可視化し、計画的・戦略的な収集・修復・レプリカ制作のための財源確保の検討も推進する。 **燻蒸：** 従来の燻蒸方法がとれなくなるのに伴い、博物館協会や他館との協議やヒアリングを進め、IPM（Integrated Pest Management: 総合的有害生物管理）の導入も含めた現実的な燻蒸方法を確立する。 **公開：** 収蔵資料に関し、I.B.MUSEUM SaaS 他を活用したデジタルアーカイブ化・IT 化を推進する。 **阿武川歴史民俗資料館・旧福栄小学校収蔵倉庫の今後の検討：** それぞれの収蔵資料のリスト化と共有、施設の移動に備えた収蔵資料の保管・活用手法の具体的なプランを検討し、関係者に示す。 **書庫：** 書庫の図書の収集基準、登録・管理の方法を検討する。 書棚の修理、館内の図書全体を再登録・配架する方法も中長期的に検討する。
目標６ 施設の計画的な改修と運営	整備から 20 年を経過し、老朽化が進む施設及び設備の状況把握と計画的な修理・更新を実施する。また、今後 20 年間を見据えて必要となる設備・機器の整備を計画的に行う。 **非展示エリアの改修：** 空調設備の全面更新事業（第二期）、施設点検に基づく計画的な施設の修繕を行う。 **展示エリアの改修：** 展示室の照明、機器、ケース等を点検、補充・更新計画を策定。長期的な観点から展示室を中心に照明の LED 化に向けた計画案を作成し、事業化を進める。 **整備の検討：**入館券のデジタル対応（前売り・チケットレス）、電話のIP電話化の検討。福川倉庫の改修の可否の検討。 **阿武川歴史民俗資料館のあり方：** 令和 7 年に開館 50 年度迎える阿武川歴史民俗資料館の今後について、地域や関係課と協議をしておおまかな方針を出す。